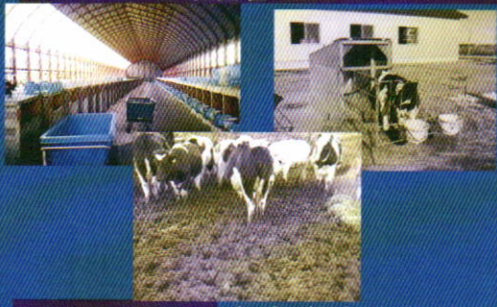


繁殖管理の目標

- 24ヶ月分娩を実現させるためには、15ヶ月までに受胎しなければならない
- 授精対象となる牛は、きちんとグループ分けを行う
- 13ヶ月で体重350kg、体高127cm

環境管理



衛生管理

- 駆虫
- ワクチン接種
- 除角



3 ほ育・育成牛の施設

カーフハッチ設置のポイント



確認しましょう。モニタリングは全頭を測定することが望ましいのですが、何頭か選定してモニタリングすることでも現状の管理方法が適切であるか判断可能です。柱などにビニールテープで目印を付けると、通常の管理や牛舎内の巡回時に一目で確認できます。

(4) 繁殖管理

授精にあたっては、発情発見が重要です。種付け時期の育成牛の変化を観察し、適時授精を行いましょう。繁殖検診も重要です。なかなかとまらない場合は、早めに検診を受けましょう。

分娩が近くなると胎児も大きくなり、行動が緩慢になり、飼料の食い込みも減少します。栄養不足にならないように、良質な粗飼料と併給飼料を給与しましょう。

また、育成期と分娩後で飼養方式が異なる場合は、この期間に環境に慣らしておくことが必要になってきます。

(5) 施設環境管理

清潔で、環境の整った施設は、育成牛の成長にも好影響を与えます。牛体が汚れると無駄なエネルギーを消費してしまい、育成牛の発育に悪影響を及ぼします。

パドックなどに育成牛を放す場合、給水器周りや牛舎の出入口が泥濘化しやすくなります。給水器が不足したり、牛舎に汚れた菌を持ち込んでしまうことにもなりかねません。パドックの整備も行いましょう。

(6) 衛生管理

育成牛は体調管理が重要です。駆虫やワクチン接種など、衛生管理に気をつけましょう。また、角は管理作業の妨げになりますので、除角をしましょう。

平成13年版営農改善資料「ほ育・育成牛の施設」を要約したスライドです。ほ育・育成牛の施設は育成牛の健康や管理作業時間などに影響します。施設ポイントを確認します。

※ 主な内容

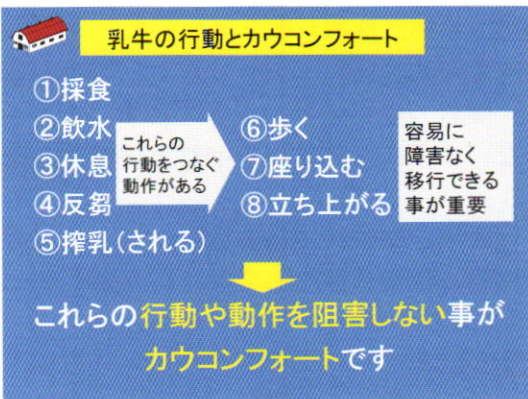
- カーフハッチ・ペン
- スーパーハッチ
- 育成舎
- 衛生管理

Ⅲ カウコンフォート その大きな可能性

ここでは、主につなぎ牛舎における「乳牛の快適性」について述べます。詳しくは、平成11年度版営農改善資料集第27集に記載されています。

1 序章

乳牛の生産性や健康を高めようとする場合、栄養学に基づいた飼養管理は勿論ですが、生活環境つまりカウコンフォートを高めることが非常に有効だといわれています。総合的にカウコンフォートを改善することができれば乳牛の潜在能力を引き出すことができます。



(1) 乳牛の行動と快適性

乳牛は1日24時間の中で主に

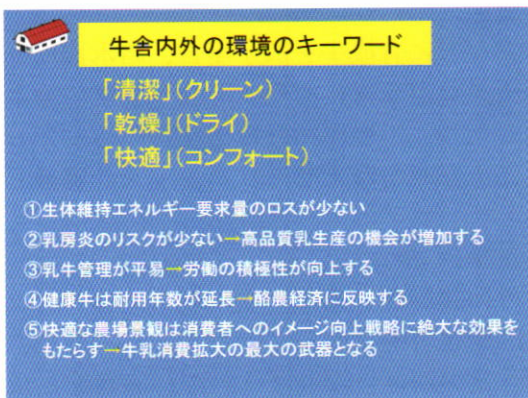
①採食 ②飲水 ③休息 ④反芻 ⑤搾乳(される)の5つの行動を繰り返します。

この他には当然糞尿の排泄や自分の体をなめたり、四肢を伸ばしたり、周期的な発情行動をとります。

そして、これらの行動には、

⑥歩く ⑦座り込む ⑧立ち上がるという動作が一連で行われます。

これらの動作は、「容易に」「障害なく」移行することが必要です。

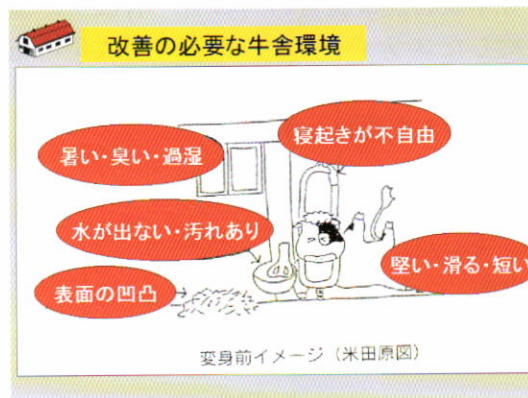


(2) 快適性のキーワード

乳牛の生活環境を向上させる上で見落としとしてはならないことは、「清潔」(クリーン)、「乾燥」(ドライ)、「快適」(コンフォート)、であることです。

この条件が揃えば、

- ①生体維持エネルギーのロスの減少(産乳、繁殖などへのエネルギー増加)
- ②乳房炎のリスクの減少(高品質乳の生産増)
- ③乳牛管理が容易になる(きれいで健康な牛体)
- ④健康牛は耐用年数が延長する(酪農経済に反映)
- ⑤快適な生産環境は消費者へのイメージアップにつながります。



(3) 快適性を重視した改善事例

本資料は牛舎の快適性について主に

①牛床 ②換気 ③繫留方法 ④飼槽 ⑤給水の5つの点に分けて現地事例を記載します。

乳牛は決してストレスの多い環境を望んではいません。